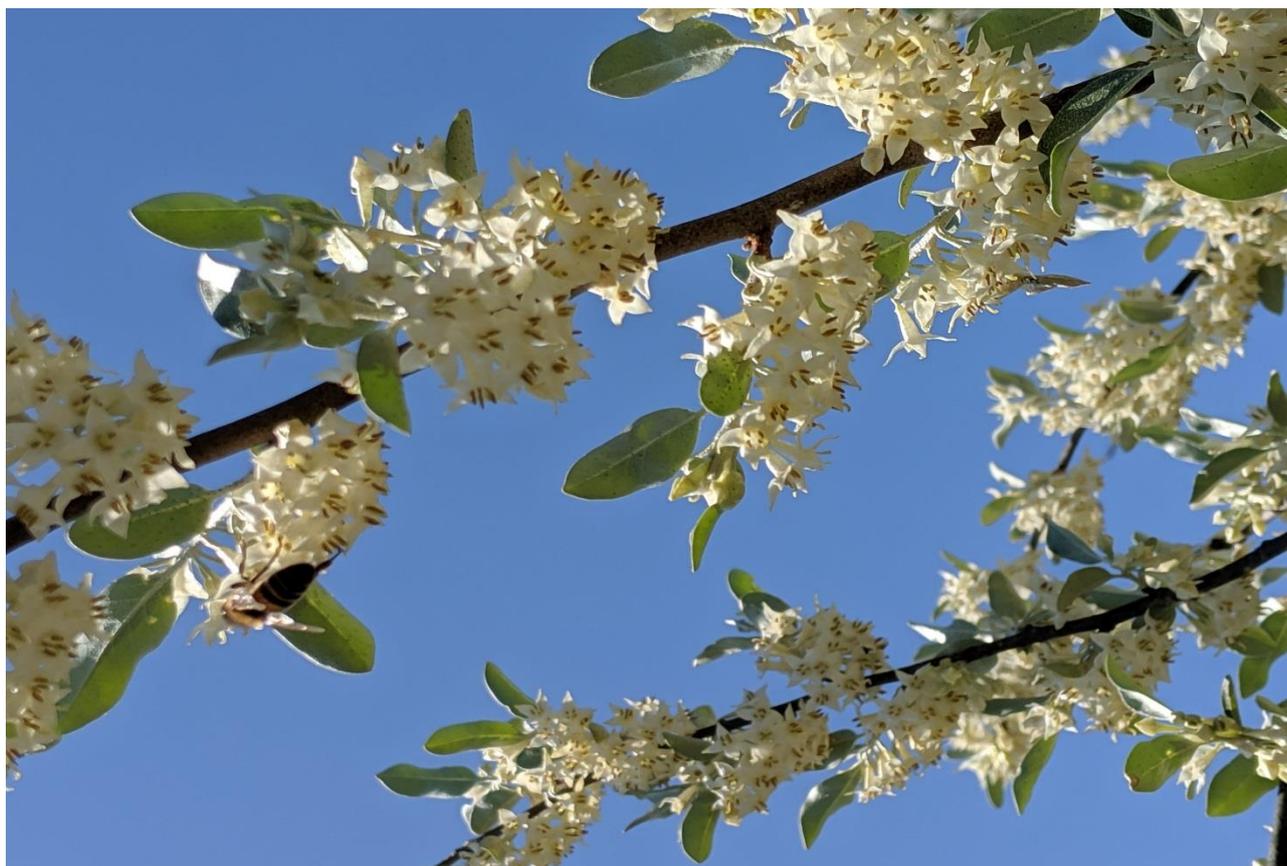


# よしまい

2023年 春号



アキグミの花、満開！

## 目次

### 公園の風景

- ・アキグミ・ハルグミ ..... 1
- ・特技は反転垂直降下です ..... 1
- ・タヌキもイタチも！ ..... 1
- 木々と木の実と野鳥の話① ..... 2
- みんなのひろば
- 織りと私 ..... 2

### 活動紹介

- ・中高生レンジャーとコラボ ..... 3
- ・ボランティア募集中♪ ..... 3
- ・一年をふり返って ..... 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail [ashinokai.kirara@gmail.com](mailto:ashinokai.kirara@gmail.com)

HP [ashinokai.html.xdomain.jp](http://ashinokai.html.xdomain.jp)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**



# 公園の風景

## = ハルグミ・アキグミ =

園内にはグミの木が散在しています。春に開花し秋に実るものと秋に開花し翌年の春に実るものがあり、花蜜や果実を求める昆虫や鳥にとっても貴重な木であることは確かです。



ハルグミ



アキグミ

2001年1月の公園開園に合わせ植樹された27種類の樹木の中にグミも含まれていました。

グミには落葉するものと常緑のものがあります。山野に自生するだけでなく、根に着く菌の働きで海岸などの肥沃でない土地でも育ちます。春に枝いっぱい花を咲かせるのが中低木（3m以下）で落葉樹であるアキグミで秋に実をつけます。秋に花を咲かせ、春に実を付けるのがナワシログミとも呼ばれるハルグミ。枝の先が垂れ下がりツル植物のようにも見えますが、トゲがある常緑の低木です。もう一つ公園で見られるマルバグミは、葉が丸いからの命名で、花・実の時期はナワシログミと同じ。実の形はアキグミは球形、春に実る2種は楕円形ですが、どのグミも薄い黄色の筒状の花がサクランボのようにぶら下がって咲きます。

## = 特技は反転垂直降下です =

ロシアや中国の北東部などから渡来し、日本各地のヨシ原で越冬する猛禽類のチュウヒがそろそろ北へと帰って行きます。ミサゴもホバリングから水中の魚めがけて垂直降下しますが、チュウヒは空を飛びながら反転し垂直に降下して地上の小動物を獲るといふ、他のタカやトビなどにはできない特技を持っています。低空を飛ぶことが多いようですが、高い空から真下に向かってホバリングしながら段階的に降りてくることもあるそうです。



トビより一回り小さいとはいえ、体の色が似ていてトビと見間違いやすいですが、一番の識別ポイントは飛ぶ姿のカッコよさ。両翼を立てV字にして飛びます。チュウヒの識別ができれば、次は「反転垂直降下」を是非、目撃してみたいですね。トヨタのSUV、ハリアー（旧型）のエンブレムには鷹がデザインされていますが、「ハリアー」はチュウヒの英語名。なので、あのタカはチュウヒがモチーフになっているのですね。

## = タヌキもイタチも！ =



3月4日(土)、公園に春を呼ぶイベント、ヨシ焼が行われました。今年焼かれたのは4ヘクタールあるヨシ原の、西側約2ヘクタール。いつもの通り消防団が待機し、多くの参加者が見守る中、火が放たれました。ヨシ原をすみかとしているタヌキやイタチが大慌てで飛び出し右往左往。タヌキは水路に渡した板を渡り、イタチは水に飛び込んで一目散に逃げて行きました。他の生き物たちも無事避難していったことを祈ります。パチパチと燃える火で予定していた場所がすっかり黒焦げになったのを見届けた後、引き揚げてきた関係者の方々は玄関横で湯気を立てているぜんざいの列に並びました。しばらくの間できなかった「葦の会」によるぜんざいサービスの復活です。



# 木々と木の実と野鳥の話 ①



2001年8月撮影

園内に入って右手に「樹林地」についての説明が書いてある看板があります。

「樹林地は、自然観察公園の野鳥や昆虫たちが、外からの影響を受けずに生活しやすい環境を守る大切な働きがあります。ここに植栽されている樹木は、きらら浜の周辺で見られる樹木の中から、塩分や潮風に強い木、野鳥のエサとなる実のなる木、昆虫が生活場所として好む木を選んであり、木が生育するにしたがっていろいろな野鳥や昆虫たちが観察できる森へと育っていきます。」

開園から20余年、木々は大きく成長しました。当初植えられた27種約24,000本の樹木以外にも、ウルシ科、バラ科、ヤナギ科など、動物が運んだ種や風にのった花粉により実を付け野良生えした木々がそれぞれが株を増やし育っています。開園当時の写真と比べると樹木の成長のほどがうかがえます。

ところで、園内に多く植えられているシャリンバイの実を好んで食べるのはどんな鳥でしょうか？他にも公園にたくさんある実のなる木がどんな生き物や野鳥に食べられているかを調べて次号よりお伝えしていきます。

## みんなのひろば😊

### 織りと私

『さをり織り』との出会いは、およそ6年前。とある喫茶店の一角に置いてあった布でした。いろいろな色が組み合わさって出来た不思議な色合い。「なんてきれいなんでしょう！」と胸キュンでした。

さをり織りは、1968年に大阪の地で、城みさをさんの手によって生み出された手織りで、織る人の感性そのものが表れるアートのような織りと言われています。自由に、思うままに織る、糸が一本抜けていても、はみ出していてもいい、機械にまねできない、一人ひとりが持つ美しい個性が織りなす布は、世界にたった一つの素晴らしいもの。

私は間もなくして大阪に行き、さをり織りを習い、織り機や糸を買い、自宅で織りを楽しむようになりました。独りで織っても楽しいのですが、誰かと一緒に出来ればもっと楽しいだろう



など思うようになっていたところ、「葦の会」のミニ講座で体験織りの場を設けていただけることとなり、先日、実現しました。わずかな時間でしたが、会の皆さんと一緒に織りを楽しむことができ、とてもとても幸せな時間でした。

ミニ講座での体験で、また一つ私の夢は広がりました。織りを通じて人とつながりあえる、誰もがほっとできたり、ふっと笑顔になったりできる、そんな手織り工房をつくることです。夢実現の折には、是非、遊びに来てくださいね。(N.F)



# 活動紹介

## = 中高生レンジャーとコラボ =

葦の会の環境サポートチームに中高生レンジャークラスからコラボ活動の声が掛かり、2月19日(日)実現しました。中高それぞれ1人ずつの女子が加わり、平均年齢がグッと若返りました！



アサギマダラ観察ロードのフジバカマは、昨年の秋に花を咲かせたまま今は立ち枯れ状態ですが、根元を観察すると芽吹きが確認できます。まずは枯れ茎を少し残して刈り取り、昨年植え付けに失敗し成長が見られなかった数か所に、会員が持参した苗を植え付けました。地表には枯れ枝しか見えないものの地下に立派な根が成長しているのです。

さすが自然観察公園を活動の場としている彼女たち、泥にも臆せず楽しげに2時間の共同作業を終えました。フジバカマの根が伸びる様子を彼女たちに見せたいと考えたチー



ムリーダーは、用意した透明ボックスに浅く水をはりフジバカマの根を入れて一週間ほど展示し、来園の皆さんに観察してもらいました。公園にはワクワクレンジャークラス(小3~4年)、チャレンジレンジャークラス(小5~6年)もあり、それぞれ月1回の活動をしています。



<俳句教室 最多選句>

## = ボランティア募集中♪ =

来たる3月21日(火・祝)に春の「ボランティア説明会」があります。あなたも子どもたちと一緒に自然の中で活動してみませんか？仲間もでき、生き物や植物のことにも詳しくなれること受けあいですよ。

当日は公園の成り立ちやその役割についてのレクチャー受講後、レンジャーと共に園内の施設などを見学し、その後「葦の会」の活動の一部も見ただけです。今回間に合わなかった方は、秋の説明会にどうぞご参加ください。

## = 一年を振り返って =

令和4年度は葦の会が20周年を迎えた年でした。連絡網も確立し、会員への連絡もスムーズに行えるようになりました。会を構成する4チームの、それぞれの活動を越えた催事毎の協力を有難く感じています。ホームページもリニューアルから1年となり、クリック回数の数値が気になるところです。

間もなく令和5年度がスタートします。楽しく意義ある活動の場としてだけでなく自然を守ることの大切さを発信できる葦の会を目指したく考えます。(T.M)

・ぬくもりを感じてここに冬の蜂

孝雄

1月

・梅檀の食べ尽くされて木の芽雨

孝雄

2月

### <編集後記>

長いトンネルをようやく抜け、日常が戻りつつあるようです。マスクを取って園内を歩くと、ほのかに木々の香りがして生き返る思いがします。淡水池からはキョンキョンというオオバンの声が聞こえてきました。今ここにある小さな幸せを大切にしたいと思う今日この頃です。(nimu)